

2015年
入試用

学校説明会レポート



桐朋中学校

日時	2014年 6月18日(水) 11時15分~12時00分
所在地	国立市
会場	視聴覚室
対象	塾
出席者数	約70名
配付資料	説明会資料、学校案内、2014年入試問題+模範解答、学校説明会アンケート 桐朋学園リーフレットなど

説明会の概要

司会 中学部長 村松先生

校長より

校長 片岡哲郎先生 11:00~11:15

- 「啐啄同時」の言葉のような場面が、桐朋祭という学園祭の最中に見られました。この言葉は、桐朋の営みにじっくりくる言葉だと思います。
- もっとも桐朋らしいこだわりは、本物の学問を探究する精神でしょう。新校舎は、そうした本物の学びに対するこだわりが詰まった校舎です。
- もう一つ桐朋が大切にしているのは、多様な個性を尊重しながら、お互いに共鳴しあうことで成長する仲間関係です。6月16日に竣工した共用棟・高校棟には、生徒が自由な人の集まりを形成するさまざまな場が意識的に配置されています。
- 中1という時期は、予習復習を軸とする学校生活のリズムを確立するのが大切です。
- 中2の2学期から中3の夏あたりまでは心身の変化が大きく、非常にデリケートな時期です。担任を中心として多くの教職員がチームとなり、細やかな気遣いと強い覚悟をもって、揺れ動く生徒の心を支えています。こうした日常の積み重ねがあって、信頼が強くなっていくのです。
- 中3の2学期から、運動会・修学旅行という行事を重ねて、彼らはぐっと成熟していきます。美術の授業の最終課題「自画像」は、他人の目から見ておかしくないように描く「リアル」さから、自己の内面と向き合って主観的に感じられる「リアル」さへと質的

な変化を意識する、象徴的な場面です。

- こだわりぬいた新校舎で、本物の学問・本物の仲間、そして本物の体験を提供したい。どうぞ、新時代に向けた桐朋の「次の学び」にご期待ください。

入学試験について

中学教務主任 栗原先生 11:15~11:40

2015年入試日程と試験科目

- 【変更点】 中学入試→大きな変更はありません。(予定)
- 試験日 2月1日 (翌日合格発表)
- 入試教科 4教科 (国・算各100点、社・理各60点)
- 各教科の足切り点はなく、4教科の総合点で合否を判定します。
- 各教科の受験者平均点は毎年変動しています。2014年の受験者平均点は、国語49.5点、算数56.2点、社会36.9点、理科39.2点でした。合格者平均点は、国語53.8点、算数61.8点、社会40.0点、理科43.0点でした。ボーダーラインは176点、得点率は55.0%です。受験生に4科で6~7割を点数してもらえようようなバランスの良い問題作成を目指しています。
- 本校に入学してほしいのは、学問に対する探究心と向学心があり、人の気持ちを理解することができる想像力を持ち、自分の考えを言葉で相手に伝えることができ、行動に移すことができる生徒です。

出題傾向

国語 これから中学生になろうとする生徒にとって、新たな視点を得られるような、物事について深く考えるきっかけとなるような文章を出題し、設問に対して自分の言葉でわかりやすく伝えることができる力を見ます。例年大問2題の構成で、2014年は重松清「きみの町で」、鈴木敏夫「仕事道楽 スタジオジブリの現場」より出題しました。特に大問①は本文の中に読み解くヒントがたくさんあるにもかかわらず読解が不十分で、各問で場当たりの答えている答案が目立ちました。これからも本文全体をふまえながら設問の主旨を考えさせ、わかりやすい言葉で説明できるかどうかを見ていきます。

算数 中学入学後に必要となる基礎的な計算力や図形の知識、さらに総合的な応用力までを見ます。問題はほぼ難易度順に並び、記述問題は例年2問程度の出題です。記述問題は自分の頭でしっかり考え、手を動かしながら構造を理解し、規則性を見つけるようにしてください。どのように考えて答えを導いたかを見ますので、途中の考え方が採点者にわかるように書いてください。2014年は、①~④は基礎から標準レベル、⑤~⑦は標準から応用レベルとなっています。①、②の計算は必須レベル③、④程度の問題

はスムーズに解答できる計算力と思考力を求められています。⑤、⑥、⑦は手を動かして考えるような勉強を心がけてほしいとの考えから出題していますが、図形問題の正答率はあまり良くありませんでした。

社会 地歴公民でまんべんなく、教科書の内容を踏まえた基礎的問題から知的関心を持てるような応用問題までを出題します。基本事項をしっかり押さえ、基本的な用語は正しい漢字で書けるようにしておいてください。歴史の論述では問題の意図を捉えることが重要です。地理では、どこかで解いた問題に答えるような書き方ではなく、推察しながら答えてください。歴史資料、地図、統計表、グラフを読み、考え、表現する力をつけてきてください。2014年の歴史は世界との関わりで活躍した日本人、公民は高度情報化社会とその課題、地理は都市の発達、交通、エネルギー需給などの総合的な問題を出題しました。歴史は「時代認識」が毎年重複して出題されます。2014年は、歴史に記号問題を導入したこと、地理で読売新聞の編集手帳を引用したことが例年とは異なりました。公民では現代を生きる主権者として主体的に情報に接する態度を問いました。

理科 物理・化学・地学・生物の4分野から偏りなく、基礎から発展までバランス良く出題しています。日常生活の中にある理科を題材とし、奇をてらったものはありません。2014年は、物理は振り子の実験、化学は水溶液の性質、生物は消化、地学は気温を出題しました。化学は指示薬の色の変化についての基本的な内容の出題でした。これなどは必ず正答してほしい問題です。生物では定番の「ヨウ素デンプン反応」についての問題の正答率が低くて残念でした。地学は「気温のはかりかた」「1日の気温の変化」「猛暑日と熱帯夜」についてのグラフと表の読み取り方を問いました。記述問題では問われたことに的確に答えず、余計なことを書いている答案が目立ちました。

進路指導について

進路指導部主任 林先生 11:40~12:00

- 本校では生徒自らが自主的・主体的に進路について考えることができるように、段階を踏んで指導しています。担任(高2・高3持ち上がり)による個人面談と進路指導部によるガイダンスを開催しています。
- 中学では年5回の定期テスト以外に復習テストが実施されます。中1・中2の2月に国数英の3科、中3では9月に国数英の3科、1月に理社の2科で実施します。
- 毎年、高1の6月に開かれる在校生卒業生(10年前の卒業生)懇談会では、「進路とは」「仕事とは」というテーマに沿って、さまざまな方面で活躍している卒業生が現在までの道のりを語ります。2013年度の講師の職業分野は企業経営・公認会計士・映画製作・公務員・医師・金融・広告・企業研究員などでした。
- 高2の11月に開催される在校生卒業生懇談会の講師は本校のOBで現在大学などの研究職に就いている人たちです。「大学とは」「学問とは」というテーマで会が進められます。2013年度の講師の専門分野は文学・社会学・法学・経済学・地学・医学・解剖学・

生物学・建築・半導体・情報工学などでした。

- 進路決定のアプローチとして高1で職業観を抱かせ、高2で学問分野を探求する心を養い、高3で大学を選択できるように指導していきます。

説明会の雰囲気・印象

- 先生方は限られた時間の中でポイントを絞って説明をしてくださいました。資料が充実していてわかりやすい説明会でした。生徒一人ひとりの人格を尊重し、彼らの持っている人間性を豊かに伸ばし、真の学力を伸ばすために先生方がひたむきに取り組んでおられることが伝わりました。

学校周辺の環境

- 通学路となっている国立駅南口から谷保駅までの大学通りは桜並木です。大学通りの両側には小規模商店や会社が立ち並び、学園正門の面している通りは見晴らしの良いバス通りです。近くに一橋大学、都立国立高校などがあります。

交通

- JR中央線 国立駅南口から南へ徒歩 15 分
または（バス）国立駅南口④番乗車場から
谷保駅・矢川駅・営業所行にて「桐朋前」下車
- JR南武線 谷保駅から北へ徒歩 15 分
または（バス）国立駅行にて「桐朋前」下車